

エコアクション21

環境活動レポート

(対象期間: 2014年4月1日~2015年3月31日)



2015年6月30日

東京特殊車体株式会社

目 次

1.	組織の概要	1
2.	環境方針	2
3.	環境活動の実施体制	4
4.	過去3年間の環境負荷の状況	5
5.	環境目標(中期3ヶ年計画).....	7
2012～2014年度		
6.	今年度の環境目標と実績、次年度の取り組み.....	8
7.	環境関連法規等の遵守状況並びに違反、訴訟等 の有无.....	10
8.	代表者による評価および見直し.....	10

1. 組織の概要

1. 事業所名
東京特殊車体株式会社
2. 代表者氏名
取締役社長 八木 英樹
3. 所在地
〒192-0907 東京都八王子市長沼町 1304 番地の 1
4. 環境管理責任者
総務部長 木村 英樹
連絡先 : TEL: 042-644-3517 E-Mail : hideki.kimura@toutoku.co.jp
5. 事業の規模
資本金 : 40,000 千円
年商額 : 2,489 百万円 (2014 年度実績)
主要品生産量 : その他製造業 (特種車両の製造 : 102 両 2014 年度実績)
従業員数 : 6 3 名 (2015.3.31 現在)
延床面積 : 5,761 m²
敷地面積 : 8,337 m²
6. 事業活動の内容
各種特種車両の設計・製造販売・修理
7. その他
設立年月日 : 1967 年 2 月 10 日

認証・登録の対象組織・活動

登録組織名 : 東京特殊車体株式会社
関連事業所 : なし
登録対象外 : なし
活 動 : 各種特種車両の設計・製造販売・修理

2. 環境方針

環境方針

東京特殊車体株式会社は、「環境にやさしく」という京王グループ理念に基づき、環境保全に配慮し、環境負荷低減を目指した事業活動を行います。

1. 環境保全活動を推進するにあたり、技術的・経済的な事情を勘案のうえ、京王グループ環境基本方針に沿って、以下に掲げる環境負荷項目の低減に努めます。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減
 - (2) 廃棄物排出量の抑制と再利用の向上
 - (3) 節水の実践
 - (4) 化学物質使用量の削減
 - (5) グリーン調達の推進
2. 環境保全活動を継続して実施するため、具体的な環境目標・活動計画を策定して取り組みます。また、環境目標は定期的にあるいは必要に応じて適時見直しを行います。
3. 環境に関する法令、規制その他公的基準を遵守します。
4. 環境方針を全従業員に周知するとともに、環境に配慮した製品・サービスを提供することにより、全社一丸となって環境保全に貢献します。
5. 環境保全活動等については、環境活動レポートとして公表します。

制定 2012年 1月 1日

東京特殊車体株式会社
取締役社長 八木 英樹

《参考》系列グループの理念および環境基本方針

「京王グループ理念」

私たち京王グループは、
つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、
「信頼のトップブランド」になることを目指します。
そして、幸せな暮らしの実現に向かって
生活に溶け込むサービスの充実に日々チャレンジします。

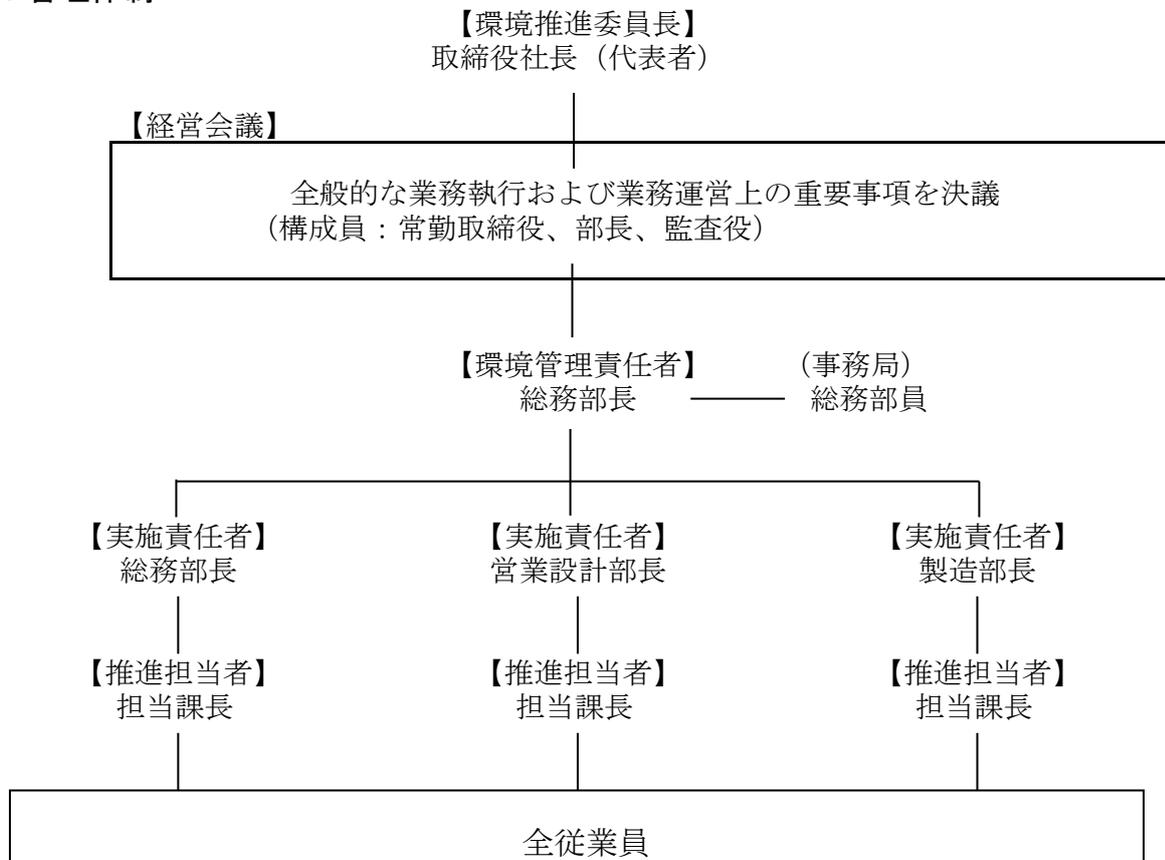
「京王グループ環境基本方針」

私たちは、「環境にやさしく」というグループ理念に基づき、環境問題を地球規模で考え、持続的発展が可能な社会の実現を目指して、環境保全に配慮した事業活動を行います。

1. 地球温暖化防止のため、エネルギーの効率利用に努めます。
2. 循環型社会実現のため、廃棄物の削減、リサイクルおよび適正処理を図るとともに汚染の予防に努めます。
3. 環境に関する法令、条例、協定などを遵守します。
4. 地域社会との調和を目指し、騒音、振動の抑制ならびに緑化活動の推進に努めます。
5. より良い環境の実現に向けて、地域や社会の環境保全活動に積極的に参加します。
6. 従業員一人ひとりの環境意識向上を図るため、啓蒙・教育活動を実施します。
7. これら環境保全環境を推進するため、鉄道をはじめとするすべてのグループ会社の事業活動において環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善に取り組めます。

東京特殊車体(株)環境管理体制及び役割

1. 管理体制



2. 役割分担

名称	役割・責任	
環境推進委員長 (代表者)	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動全般の推進 環境管理責任者の任命 環境活動の評価、見直し（毎年1回） 	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の作成 経営資源の確保
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 活動の構築、運用 各種会議体の開催 代表者への報告 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局運営 取組み状況の確認と改善 外部からの苦情の窓口
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境責任者、運営のサポート 環境活動レポートの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 各種データの取得、記録 啓蒙活動の推進
実施責任者	<ul style="list-style-type: none"> 各部門の統括 推進担当者のフォロー 	<ul style="list-style-type: none"> 活動計画実施状況の監督
推進担当者	<ul style="list-style-type: none"> 活動計画の実務推進 環境活動の実施状況の報告 取組みに対する意見の集約、具申 	
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解、取組みの意義・重要性の自覚 環境活動への参加、環境計画の実行 	

4. 過去3年間の環境負荷の状況

4.1 主要環境項目

環境への負荷(指標及び種類)		単位	2012年度	2013年度	2014年度	
			2012.4-2013.3	2013.4-2014.3	2014.4-2015.3	
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	t-CO ₂	379.7	371.5	382.6	
② 廃棄物排出量	資源物	再生利用	t	120	141	144
		焼却処理	t	4	4	4
	産業廃棄物	中間処理	t	73	61	60
③-1 総排水量	下水道	m ³	1,377	1,088	1,087	
③-2 水使用量	上水	m ³	225	248	238	
	地下水	m ³	1,398	1,019	1,030	
④ 化学物質使用量	PRTR	kg	3,896	2,190	2,306	
	都管理物質*1	kg	4,613	2,860	2,652	
	総排出量	kg	5,501	3,296	3,132	
⑤ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)	MJ	5,723,109	5,464,886	5,980,824	
	化石燃料	MJ	2,747,502	2,767,656	2,679,522	
⑥ 物質使用量	資源使用量	t	292.2	269.0	273.3	
⑦ サイト内で循環的利用を行っている物質等	利用された物質量	-	対象なし	対象なし	対象なし	
	水の利用量	-	対象なし	対象なし	対象なし	
⑧ 総製品生産量	製品生産量(新車)	台	116	96	102	

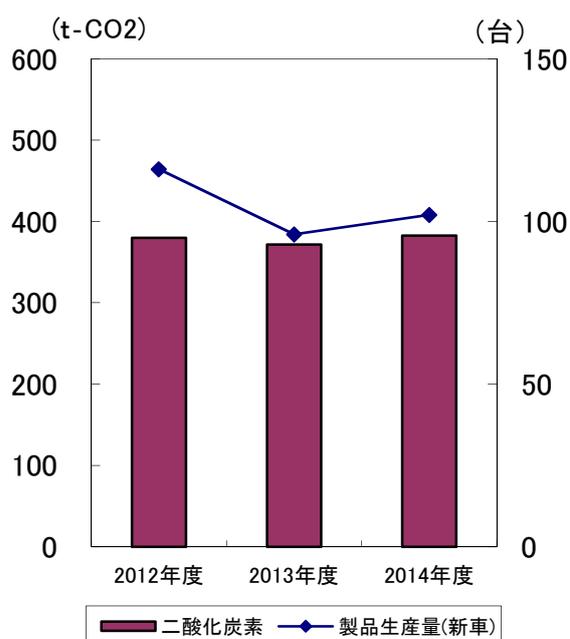
※CO₂排出量の計算に使用した電気のCO₂排出係数は

2012年度までは 0.375kg-CO₂/kWh

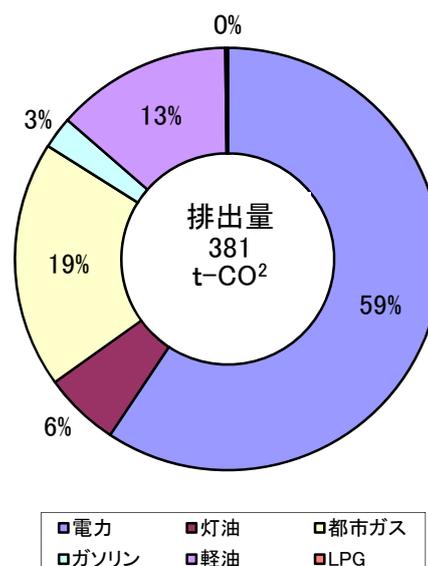
2013年度からは 0.377kg-CO₂/kWhで算出してます

*1 : 2015/7/6数値訂正

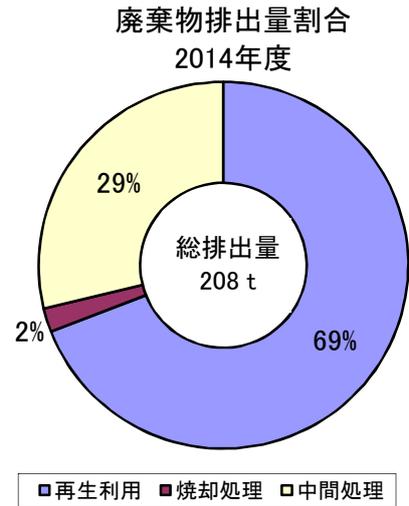
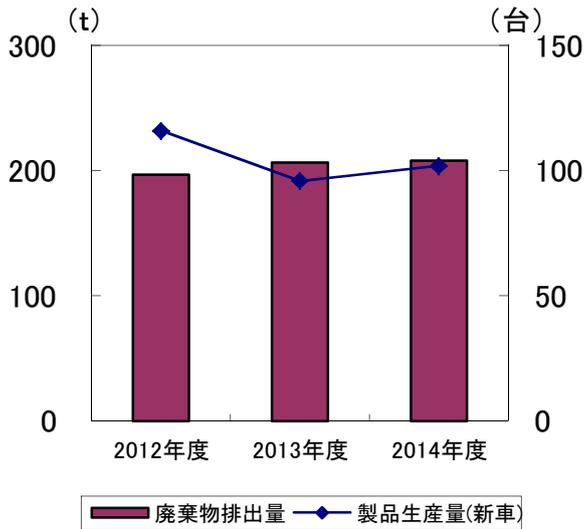
二酸化炭素排出量と生産量



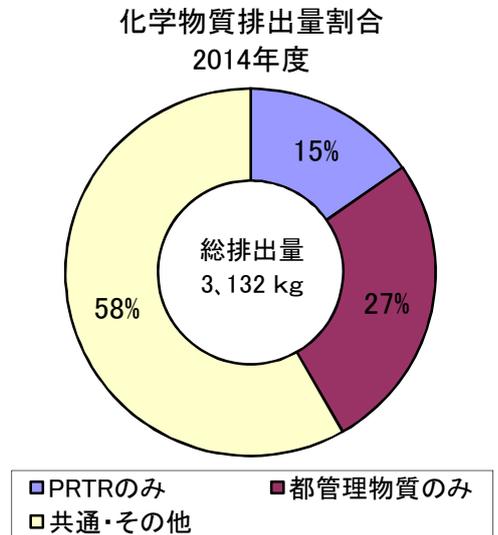
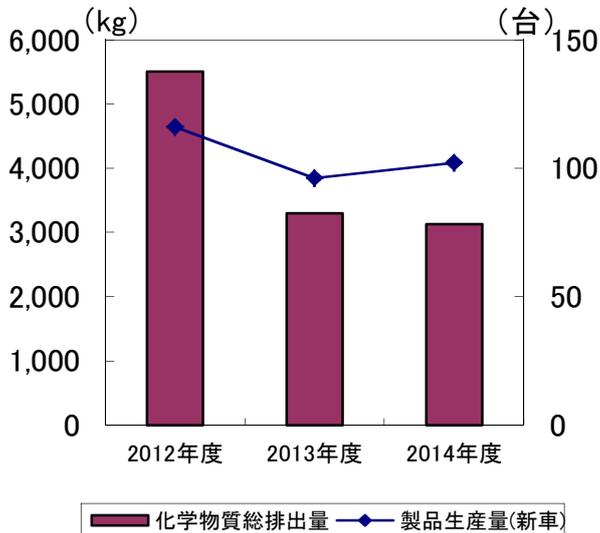
二酸化炭素排出量割合 2014年度



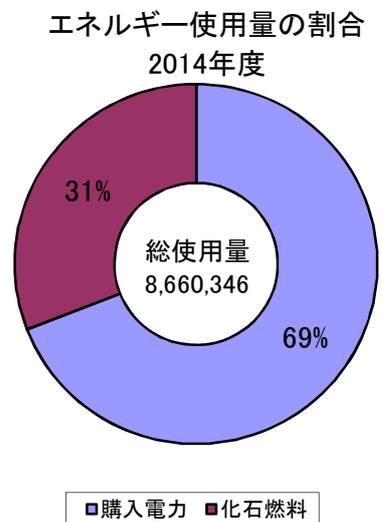
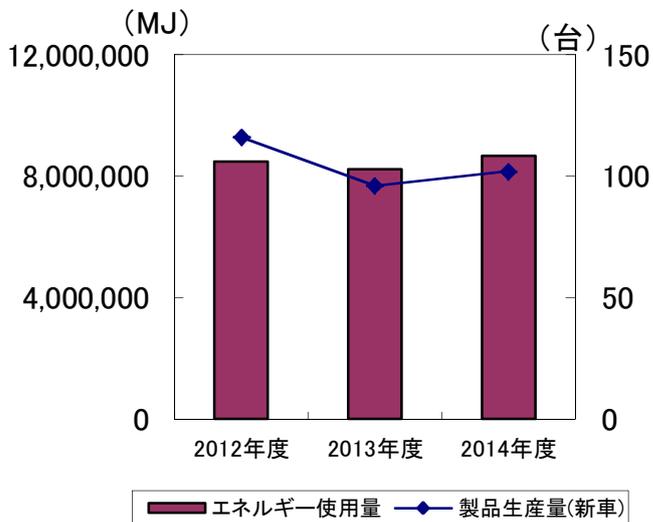
廃棄物排出量



化学物質使用量



エネルギー使用量



5. 環境目標（中期3ヶ年計画）

2012年度～2014年度

環境中期目標の主要項目

2012年3月 制定

重点施策	目的	環境目標 環境活動計画			
		2012年度	2013年度	2014年度	
1. 環境負荷の削減	1.1 省エネルギー・省資源	CO ₂ 排出量削減 ((t-CO ₂) /製造台数)	4.48	4.43	4.39
		使用電気量削減 (kWh/製造台数)	7,345.7	7,272.2	7,199.5
		都市ガス使用量削減 (m ³ /製造台数)	295.8	292.8	289.9
		灯油使用量削減 (ℓ/製造台数)	161.4	159.8	158.2
		水使用量削減 (m ³ /製造台数)	14.0	13.9	13.8
		化学物質使用量の削減 (kg/製造台数)	50.4	49.9	49.4
	1.2 廃棄物削減	業務上発生する廃プラ量の削減 (中間委託業者 kg/製造台数)	411.0	406.9	402.8
2. 環境取組の推進・向上	2.1 グリーン購入	環境を考慮した事業経営	現状把握	品目のリスト化	品目の増加
	2.2 顧客サービス	業界団体の環境活動への参画 地域住民への工場公開、情報提供	工場公開実施	・工場公開 ・業界団体の新環境基準適合レベルの取得	工場公開継続
	2.3 その他	5S活動の定着 整理・整頓 作業スペースの確保・拡大 日常清掃の定着、分別の徹底	事務局主導の5S委員会開催	5S活動の定着	5S活動メンバーの自主展開

6. 今年度の環境目標(環境活動計画)と実績、次年度の取り組み

6.1 環境負荷の削減

分類	項目	環境目標 環境活動計画	2014年4月～2015年3月 製造台数 102 両			今期の振り返りと次年度の取り組み	
			実績	対目標	評価		
環境負荷の削減	1.1 省エネルギー・省資源	CO ₂ 排出量削減 (t-CO ₂) /製造台数)	4.39 t	3.75 t (382.638 t /102)	85.5%	○	下期の塗装工程輻輳による都市ガス消費が増加したが、他の使用量削減で、計画を達成した。 次期 2015 年度は電気量削減を重点に進めデマンドの作動を減少させる。
		使用電気量削減 (kWh/製造台数)	7,199.5 kWh	5,881kWh (599,882kWh/102)	81.7%	○	
		都市ガス使用量削減 (m ³ /製造台数)	289.9 m ³	313.9 m ³ (32,018 m ³ /102)	108.3%	×	冬季の塗装工程の乾燥による稼働が多く計画未達となった。 次年度は塗装作業の内容調査を行い、今後の改善を図る。
		灯油使用量削減 (ℓ/製造台数)	158.2 ℓ	93.8ℓ (9,572ℓ /102)	59.3%	◎	本工場の作業場確保のため現場作業所の集約化を行った。冬季の暖房費の削減に繋がった。次年度も継続する。
		水使用量削減 (m ³ /製造台数)	13.8 m ³	12.4 m ³ (1,268 m ³ /102)	90.1%	○	上期は生産に使用する井戸水の消費が多く、出場台数当たりの数値を上げた結果となったが、年度では目標を達成した。 次年度も同様な結果となるか、監視する。
		化学物質使用量の削減 (kg/製造台数)	49.4 kg	30.7kg (3,132kg/102)	62.1%	◎	防火対策として危険物の管理改善と健康障害防止のため無溶剤化を推進していることが改善の主な要因と思われる。 次年度も継続して進めていく。
	1.2 廃棄物削減	業務上発生する廃プラ 量の削減 (kg/製造台数)	402.8 kg	342.6kg (34,950kg/102)	85.1%	○	工場内の整理整頓(5S活動)と併せて、製造部で使用する材料等の適正在庫管理を進めてきていることが主な要因と思われる。次年度も継続して進めていく。

電気のCO₂ 排出係数は 0.377Kg-CO₂/kWh で計算しています

6.2 環境への取り組み

分類	目的	環境目標 環境活動計画	2014年4月～2015年3月 製造台数 102 両		今期の振り返りと次年度の取組み	
			取組結果	評価		
環境への取組	2.1 グリーン購入	購入品目の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・リストの項目、対象拡大 ・購入部署の拡大 	事務用品 マーク対象品を優先購入した 営業部門も購入時に選考する様にした	○	営業設計と総務はファイルの共通化を図った。 部門間で共通品の拡大を計画する。
	2.2 顧客サービス	業界団体の環境活動への参画	<ul style="list-style-type: none"> ・車工会環境委員活動 	環境委員会は皆勤 車体解体業者見学（6月山口県） 産業構造審議会傍聴	○	環境委員行事 90%参加した。 次年度も継続、極力参加する。
		地域住民への工場公開、情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・工場公開の実施 	隣接している京王重機整備(株)と合同で 工場公開を10/19に実施	○	来場者 280 人。 次年度も実施を計画している。
	2.3 その他	5S活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の開催 ・工場内整理、整頓 	委員会は毎月開催で定着している 緊急事態訓練を年2回実施した 秋以降の場内配置換えで整理整頓を実施。	○	委員会の継続。 作業能率確保のため、整頓を継続する。 廃棄物委託業者を計画的に訪問する。
		省エネ診断による改善	<ul style="list-style-type: none"> ・改善項目の選定、採用 	7/1 にクールネット東京の診断を受診	○	予算処置が必要なので計画的に実行。

7. 環境関連法規等の遵守状況並びに違反、訴訟等の有無

当社に適用される主な環境関連法規は、廃棄物処理、騒音・振動、化学物質・危険物、消防、及び車両・輸送関係であります。これらの法律及び条令に基づき適切に対応しており、違反はありません。関係機関等からの指摘にも積極的に対応し、改善に取り組んでいます。また訴訟に関しては過去5年間ありません。

8. 代表者による評価と見直し

本年度の環境目標はCO₂削減など概ね達成することができた。ただし、省エネルギーに関して、「都市ガス」消費は昨年に引き続き未達となった。これは製造工程が冬季に集中し、塗装の乾燥に多くのガスを消費したことによる。工程の平準化については課題としたい。

本年度下期から、環境への取組みと、製造工程改善のために開発を進めてきた「LED室内照明」を本格的に採用し、該当箇所での水銀の使用を廃止した。弊社の所属する（一社）日本自動車車体工業会（車工会）の「環境負荷物質フリー宣言」から更なる前進を図った。

車工会の環境委員会活動では、最終処分の解体作業に於ける省資源化、省力化の推進のため、車体構造の見直しを進めている。弊社に於いても検討を進めている。

また、工場設備、工作機械等の省エネ化についても継続して更新を行っており、その一環として、工場全体の「省エネルギー診断」を受診し、2015年度に省資源に有効な対策を行う計画である。

本システムの趣旨、精神を全従業員が理解し自発的に取り組んでいける様講習会を実施し、収集した環境データの集計が行える段階に至った。次年度は、全社の業務改善活動（One1019）の中で、個別に具体的なテーマを与えて、全社で環境活動を推進していくことが望ましい。